

議会だより 122 号の 10 頁から 11 頁に掲載した予算特別委員会の各会計予算の議案で行われた、討論の詳細を補足します。

○令和 6 年度上富良野町一般会計予算

【反対討論】 議席 4 番 米澤義英委員

私は、一般会計予算に反対の立場から討論する。一般会計についてはそれぞれ苦勞をされた予算編成もあるかと思うが、物価の高騰は町民の暮らしや経済にも悪影響を及ぼしているという状況である。国の勤労低統計調査でも、実質賃金が物価高騰にはまだ及んでいないという状況にあり、かけ離れているということが述べられている。

今、自治体がすべきことは、物価高騰などで苦しんでいる町民の生活を支えることであり、町においては、泥流地帯の映画化を進めることではないと考える。

地域のにぎわいや観光に結びつけたいと映画化をすることについて述べているが、そうであれば一過性の映画化より、商工振興や観光振興の具体化と充実を行い、多くの人々が町に訪れるような仕組みづくりをしなければならないと考える。

地域経済の底上げを図ることや、また、移住定住の充実や子育て支援では、子どもの医療費の拡充などが行われ評価するが、さらに求められているのは、保育関係の費用負担の軽減、保育士の確保のための支援策や、基幹産業の農業を守るためにも農業後継者への支援の拡充、充実、そして必要な支援するための職員の確保などが求められていると考える。

持続的なまちづくりのための政策が一層充実し、それが、必要になってきている、三浦文学を介して、町長は、上富良野町の十勝岳泥流の教訓や魅力を知ってもらうために、映画化を進めるとしているが、私は、映画化に頼らない方策の中で多様な形態の中で、街並みに興味を持ってもらって、多くの人たちが来てもらえるように、観光振興にも結びつくような政策が必要だと考える。

何もよりも、今、行政が優先することは、映画制作ではなく、物価高騰や賃金、年金が上がらない中で、苦しんでいる商工業者や農業者、町民の人たちに寄り添い、住民の暮らしを支えることしか町の振興はあり得ません。

以上述べて、令和 6 年度一般会計に対する反対討論とする。

【賛成討論】 議席 12 番 小林啓太委員

私は、令和 6 年度一般会計予算に関して賛成の立場から討論させていただく。

令和 6 年度一般会計の予算に関しては、かねてから議会からの要望も非常に多かった高校生までの医療費無償化や、乗り合いタクシーの料金の均一化など、新たな施策も盛り込まれている。また、近年活用が進んでいる地域おこし協力隊の新たな採用など、計画に関しても一定評価できる部分があると考えている。

ただ、行政課題というのは終わりのないテーマであり、先に町長に意見書で伝えた内容等を含め、現状の計画に満足することなく、時流の変化等に合わせた対応に関しては、引き続き、尽力のほうをお願いします。

今後さらなる、住民生活の向上を目指した行政運営を令和 6 年度も期待するものとして、令和 6 年度一般会計予算に対しての賛成討論とする。

○令和6年度上富良野町介護保険特別会計予算

【反対討論】 議席4番 米澤義英委員

私は、令和6年度上富良野町介護保険特別会計予算に反対の立場から討論する。介護保険特別会計は苦勞された中身が十分理解も出来るが、町民が要介護になったときの大事な制度であることは言うまでもない。

公費負担の構成を見ると、収入の構成は、公費負担は5割、残りは保険料で賄われているという制度である。

介護保険料は介護保険制度の見直しごとに引上げられ、被保険者の負担は所得に応じてとなっているが、利用料などの負担、物価高騰による負担などが考えれば、限界を超えるという状況にある。

また利用料などの歳入の構成要素を見ると、公費負担もあるが、町民の限度を超えた介護保険料の負担で一部賄われていることは容認できるものではない。

だからこそ、財政調整基金の取崩し、一般会計の繰入れを行うなど、最低でも、保険料の引下げを行うということが、今町に求められており、歳入構成の見直しを行う必要が当然にあると考える。

また、ここでつけ加えておくと、国は繰入れを行うことは、駄目だと言っているのではなく、好ましくないと言っているだけである。

また問題は、国の公費負担の引上げを行わなければ、保険者と被保険者の負担は、今後も限りなく上がるという状況が見受けられる。この問題を解決するには、根本的な制度の見直しが必要である。

介護保険制度は誰もが、加齢に伴って生じる心身の変化により、要介護が必要になったとき、安心して介護が受けられる社会保障制度である。

しかし、現状は度重なる制度の改悪が行われ、入所施設により給食費や居住者の利用負担が求められるという状況になっている。さらに、利用料においても所得に応じて負担が求められているという状況でなっていることは絶対許されるものでない。

安心して介護が受けられない状況が現状でも続いていることを考えれば、安心して介護が受けられる制度の充実を求め、さらに、令和6年度介護保険特別会計に対して、反対の立場から討論とする。

【賛成討論】 議席 2 番 荒生博一委員

私は、令和 6 年度上富良野町介護保険特別会計予算に賛成の立場から討論とする。

賛成の理由としては、今般、争点となっている介護保険料の算定にあたっては、上富良野町第 9 期高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画をもとに、令和 6 年度から令和 8 年度までの第 1 号被保険者の介護保険料の見直しを行い、3 か年間の介護保険事業の安定運営を図ることを主たる目的とし、3 年間の標準給付費見込額、地域支援事業費見込額の合計 32 億 4,160 万 2,000 円のうち、第 1 号被保険者負担率の 23%を 7 億 4,556 万 8,000 円と算定し、調整交付金影響額 1 億 433 万 7,000 円を差し引いた額、6 億 4,123 万 2,000 円が保険料収納必要額となり、保険料基準額月額が本来 5,597 円となるところを、基金を 2,000 万円取崩したことにより、保険料の低減に取組み、5,400 円としたことを評価するものである。

また、これまでの所得階層区分 10 段階を、国から示された、13 段階へ細分化を行ったことで、低所得者層への負担割合が軽減されるなど配慮がなされていること。

そして、今回提案された介護保険料基準額月額 5,400 円は、他市町村等と比較しても、妥当な金額であること。

また、現在の基金残高の 5,000 万円から、今、第 9 期計画で 2,000 万円の基金を取崩したことにより、3,000 万円の基金残高があるため、さらなる取崩しを行い、介護保険料の低減を図るという考えや今後 3 年間の計画期間内において、伸びていくであろう給付サービスや施設サービスに備える必要性と、第 2 号被保険者の減少等による収入減が見込まれる中においては、介護保険事業の安定運営を図るため、基金残高の 3,000 万円は保持したいとの考えのもとで、今期の介護保険料を算出していることに対しても、おおね理解できるものとする。このことから、私は、令和 6 年度上富良野町介護保険特別会計予算に賛成とする。

【反対討論】 議席 9 番 島田政志委員

私は、令和 6 年度上富良野町介護保険特別会計予算について、反対の意見を述べるものである。

令和 6 年度の率の見直しについてということで話しを行うが、町長は常々、公正公平をうたわれているが、今回の介護保険料改正において、第 4 段階においては、令和 5 年と令和 6 年を比べると 5,300 円の差がある。

今回の保険の値上げ平均は 2,400 円、また、この 4 段階にいる層の方が、低中所得者層であることから、1,500 円から 1,800 円の増加が望ましいと思われる。

そのことから、4 段階の乗率を 0.99 から 0.845 に見直すことによって、5 万 4,800 円の 1,800 円のアップとなる。

また、この財源確保のために、1 段階の乗率は、今 0.285 になっているが、0.29 にすることによって、1 万 8,800 円の 100 円のアップとなる。

保険料収入は若干減少するが、基金、交付金などで埋められるものとする。

町長の理念の中に、公正公平に対応することをあげられていることから、この見直しにより、公平な保険料が整理されるものと思われる。

令和 6 年度介護保険特別会計に対して、反対の立場から討論とする。

【賛成討論】 議席 6 番 林 敬永委員

私は、令和 6 年度上富良野町介護保険特別会計予算に賛成の立場から討論とする。

本予算につきましては、第 9 期高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画を着実に実行するために、現在までの給付実績や第 1 号被保険者の状況を踏まえて推計され、今後 3 か年のサービス別給付費見込み量について、これまでの第 8 期計画で得たデータをもとに介護給付費を適正に見込まれ、本町における取組のさらなる充実が必要と思われる施策について重点施策を設定されるなど、計画の着実な達成に向けた内容となっている。

収支の取扱いについては、介護保険制度に基づき負担割合が定められていて、それをもとに適正に算定され、特に介護保険料については基金を取崩し、第 1 号被保険者保険料の上昇を抑え、被保険者の負担を十分軽減された内容となっていることは評価できるものとする。

以上のことから、私は令和 6 年度上富良野町介護保険特別会計予算に対し賛成とする。